

## 第8回 ソーシャル・ファイナンス研究会 「社会的インパクト債の最新動向／総合討論」

全8回シリーズで立ち上げたソーシャル・ファイナンス研究会も、いよいよ今回で最後となります。第8回研究会では、社会的インパクト債の最新動向について紹介すると共に、過去7回の研究会での議論を踏まえた総合討論を行います。

社会的インパクト債については、既に第3回研究会でも取り上げていますが、それ以降もさらに内外の状況が変化しています。このため、今回の研究会では、第3回での議論の概要を振り返ると共に、さらにその後の進展をご紹介します。日本でも今や多くの自治体が関心を寄せるようになった社会的インパクト債の最新状況を知る貴重な機会です。

また、総合討論では、今までにご登壇頂いた講師の中から有志のご参加を得て、日本におけるソーシャル・ファイナンス発展の可能性について、多角的に議論していきたいと思います。参加者の皆様のご質問やご意見も積極的に募り、全員参加型の議論を展開する予定です。

出来るだけ多くの方々のご参加を心からお願い申し上げます。

**【日時】** 1月21日(土) 14:00 – 17:30

**【会場】** 明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー8階 1085教室

**【講師】**

幸地正樹(ケイスリー株式会社代表取締役)

小林立明(ソーシャル・ファイナンス研究会代表)(モデレーター)

(登壇者有志がパネリストとして総合討論に参加)

**【参加申し込み】**

以下のフォームに記入し、事務局([socialfinance2016@gmail.com](mailto:socialfinance2016@gmail.com))までお送り下さい。資料代は、当日、受付にてお払い頂きますようお願い申し上げます。

---

ご氏名(ふりがな):

ご所属・肩書き :

ご連絡先 : メール1(必須)  
                  メール2(任意)

■以下から一つご選択下さい■

1. ( ) 研究会のみ参加したい(資料代 2,000円)
  2. ( ) 今回は参加できないが、メーリング・リストに登録したい。
-

## プログラム概要

### 1. 社会的インパクト債の最新動向(幸地・小林)

2010 年に英国で開始された社会的インパクト債は、その後、世界各国に導入され、2016 年には、世界 15 力国 60 案件、資金調達額は 2 億 1600 万ドルにまで発展している。当初、社会的インパクト債は、再犯防止や非行防止などの予防措置分野において、新たな事業モデルの導入を検証するための成果連動型助成事業として導入された。但し、通常の成果連動型補助金と異なり、民間資金を活用し、成果があがれば元本だけでなく財務的リターンも投資家に還元する点に特色がある。

社会的インパクト債の普及に伴い、対象分野は拡大し、現在では、教育、福祉、雇用、保健医療、住居など、様々な分野に適用されている。特に注目すべきは、環境・エネルギー分野に社会的インパクト債を適用しようという最近の動向で、仮にこの有効性が実証されれば、社会的インパクト債は新たな発展段階に移行することが期待される。さらに、社会的インパクト債を推進するための法制化や案件組成支援枠組みなども整備されつつある。

日本においても、幾つかのパイロット・プログラムが終了し、その成果が報告されている。対象領域は、児童福祉、若者就労支援、認知症予防、予防医療などで、幾つかについては 2017 年度以降に本格導入が検討されている。

本セッションでは、このように急速に進化しつつある社会的インパクト債の内外の最新動向を紹介すると共に、その可能性と潜在的な問題点を検証することで、今後の日本における社会的インパクト債の発展の可能性を検討することにしたい。

### 2. 総合討論: 日本におけるソーシャル・ファイナンスの発展に向けて

本研究会は、8 回にわたりソーシャル・ファイナンスの最新動向を紹介し、プレーヤー、ファイナンス手法、社会的価値評価など、様々な角度から検討してきた。

研究会で明らかになったように、海外では、ソーシャル・ファイナンスは多様な発展を遂げている。日本においても、社会的インパクト債、社会的インパクト投資、クラウド・ファンディングなど、新たな手法が導入されつつあり、またNPO・社会的企業向けの信用保証やローンも拡大しつつある。さらに、12 月には休眠預金活用推進法が成立し、今後、社会的インパクトを志向する事業者に対する資金提供の拡大も期待される。

こうした状況を踏まえ、本セッションでは、日本のソーシャル・ファイナンスの発展に向けた課題と展望を整理し、今後の望ましいあり方について参加者を交えて議論したい。

## 講師略歴

### 幸地 正樹(こうち まさき)

ケイスリー株式会社代表、ソーシャルインパクトボンドジャパン管理者、社会的インパクト評価イニシアチブ共同事務局。大学卒業後、リクルート・PwC を経て、2016年4月、社会的インパクト投資及び社会的インパクト評価に特化したコンサルティングサービスを提供するケイスリー株式会社を設立し、現在に至る。

### 小林 立明(こばやし たつあき)

ソーシャル・ファイナンス研究会代表。ペンシルヴァニア大学非営利指導者育成修士課程修了。国際交流基金・日本財団・日本NPOセンター勤務、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員等を経て、現職。専門領域は、グローバル・フィナンソロピーとソーシャル・ファイナンス。主要著作は、「フィナンソロピーのニューフロンティア」(レスター・サラモン著、ミネルヴァ書房、2016)(翻訳)、「英国チャリティの変容」(弘文堂書店、2015)(共著)等。

## 総合討論パネリスト

### 幸地 正樹(こうち まさき)

ケイスリー株式会社代表、

### 小関 隆志(こせき たかし)

明治大学経営学部准教授

### 多賀 優二(たが しゅんじ)

草の根金融研究所「くさの一ね」代表、中小企業診断士

### 澤山 弘(さわやま ひろし)

帝京大学経済学部教授、ソーシャル・ファイナンス支援センター代表

### 重頭 ユカリ(しげとう ゆかり)

農林中金総合研究所主席研究員

### 小林 立明(こばやし たつあき) (モデレーター)

ソーシャル・ファイナンス研究会代表。

## アクセスマップ



【住所】 東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学リバティワー8 階 1085 教室

### 【アクセス】

- JR 中央線・総武線、東京メトロ丸の内線 ／ 御茶ノ水駅(徒歩約 3 分)
- 東京メトロ千代田線 ／ 新御茶ノ水駅(徒歩約 5 分)
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 ／ 神保町駅(徒歩約 5 分)

## ソーシャル・ファイナンス研究会について

日本におけるソーシャル・ファイナンスの発展を目指して、研究者、金融関係者、NPO・社会的企業関係者、政府・自治体関係者等による情報交換と調査・研究の促進を目的に設立された研究会です。2016 年度は、全 8 回の研究会を開催する予定です。また、フェイスブック上の「ソーシャル・ファイナンス研究会」グループでも、情報交換を行っています。

- ❖ 代表： 小林立明
- ❖ 協力：(一社)ソーシャル・ファイナンス支援センター、明治大学小関隆志研究室
- ❖ 問い合わせ先：研究会事務局 ([socialfinance2016@gmail.com](mailto:socialfinance2016@gmail.com)) までお願いします。